

広島市植物公園

見どころ案内

サギソウ (ラン科)

日本各地の湿地に生える多年草。準絶滅危惧種。白色の翼を広げた鷺(さぎ)に似た花を咲かせます。広島市植物公園のシンボルマークになっています。

フウラン (ラン科)

本州より南に自生する着生植物で絶滅危惧種に指定されています。白色の花から良い香りを漂わせています。

サガリバナ (サガリバナ科)

熱帯・亜熱帯に分布する常緑樹。日本には奄美大島などの川沿いに自生。花弁は白～淡紅色で放香を放つ。主に夜に咲き、翌朝には落花します。

ヘリコニア・ロストラータ (バショウ科)

南アメリカ原産。垂れ下がる花序に、赤い苞が多数着きます。苞の先端は黄色くなります。

マツリカ (モクセイ科)

インドから東南アジア原産です。白い花は香りが強く、ジャスミン茶(茉莉花茶)などに使われます。

ニクイロシユクシヤ (ショウガ科)

インド原産。近縁のハナシユクシヤは白い花ですが、こちらは肉色の香りのある花を咲かせます。生薬のシユクシヤはまた別の植物です。

カリガネソウ

(シソ科(旧:クマツヅラ科))

日本を含む東アジアが原産です。和名はこの花の形を雁の一種の首に見立てたものです。紫色の清楚な花で、帆掛船に見立てて、帆掛草(ほかけそう)の別名もあります。

タイタンビカス

(アオイ科)

アメリカフヨウとモミジアオイの交配種。鮮やかな赤、白、桃色の大きな花が咲いています。暑さに強く、真夏にも咲き続けます。

変化朝顔展(23~31日)

江戸時代から受け継がれている伝統園芸植物です。様々な突然変異をお楽しみください。

ノアサガオのカーテン

(ヒルガオ科)

品種はオーシャンブルー、ラッキーブルー。紫色の花が咲いています。ツルは屋上まで伸びつつ、大きなカーテンを作っています。

